

淑徳大学

アーカイブズ・ニュース

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

第5号 平成24年(2012)7月30日発行



— 建築中の円形校舎（通称^{まるかん}円館・現淑水記念館） —

学祖長谷川良信先生の宿願であった淑徳大学の建築は、昭和39年(1964)7月28日の地鎮式および起工式から始まった。途中、昭和43年度から着工される有料道路(現京葉道路)の計画路線に淑徳大学の校地がかかるとして、千葉県から円形校舎の工事中止命令が出されるが、その後無事工事は完了し、翌昭和40年4月19日に第1回入学式が挙行された。

授業科目「長谷川良信の思想と生涯」の担当教員として思うこと

淑徳大学特任教授 金子 保

1. 私学の特色を打ち出す時代

「長谷川良信の思想と生涯」という、淑徳大学独自の授業科目が誕生したのは1996年度のことであった。この年の4月から、カリキュラムの大改革が実現して、新カリキュラムによる授業が開始されたのであるが、当時の大学は、陳腐化した旧来のカリキュラムの見直しが厳しく要求される時代状況にあった。産業界では既にイノベーションの荒波にもまれ、先行きの見えない状況にあつて、大学も安閑としていられない気分が支配的な時代であったように思う。18歳人口は急激な減少が予測される状況下、私立大学も先行き不透明で、不安感が漂っていた。これを打破するには、私学はその特色を打ち出さなければならない。私学独自のカリキュラムを用意し、高校生に対して魅力ある学園生活がアピールできなければ、志願者の確保が困難になるかも知れない。新設の授業科目の一つである「長谷川良信の思想と生涯」は、こうした状況下で誕生した科目であったように思う。



あれから15年、当初は春学期400名ほどの履修学生を対象とした大教室での授業であったが、本年度(2012年度)の履修学生数は20名ほどで、いずれも4年次生以上の学生である。学部共通科目ではあるが、既に使命を終えた科目であるように思える。これからは、開学時から「マルカン」(円館)として親しまれてきた第1号館の、耐震工事と内装も新たに開館となった「淑水記念館」へ、その役割が移行して行くかに思われる。その役割とは、淑徳大学の学生としてのアイデンティティの獲得の機会を提供にある。その中核施設として同記念館は「自校史教育」のフィールドとなることが期待される。

2. 学生の履修動機

2012年度の前学期、今や旧カリキュラムとなってしまった「長谷川良信の思想と生涯」の履修学生は、来春卒業が予定される4年次生以上の学生諸君である。まずは第1回授業の所感から、その履修動機を紹介しておきたい。

第1回の授業では、「思想」と「生涯」の意味について説明した後、誠信書房の『現代社会福祉辞典』(仲村優一監修)の辞典項目「長谷川良信」を紹介し、さらに「淑水記念館」前の中庭に設置の学祖像台座裏の刻文を示し、長谷川良信とはいかなる人物であるかを解説した。授業終了後の学生の所感を読むと、「せっかく何かの縁で淑徳大学に来たので長谷川良信先生がどういう人か知り、大学について考えると共に、これからの生き方の参考にしていこうと思います」(実践心理学科4年次女子)といった内容が数も多くみられ、代表的なものといえる。なかには、「大学に入って4年目ですが、自分が通っている大学について全く学んでこなかったので、この授業を履修しました」(実践心理学科4年次女子)と書いている学生もいる。また、「前に、どんな大学か問われた時、知らないことが多く恥ずかしい思いをした。4年である今、学生生活の最後にしっかり大学の事を知りたい」(人間社会学科4年男子)というものもある。またさらに、「長谷川良信が淑徳大学創設者だという事は知っていたが、マハヤナ学園を開設し、ブラジルにまで事業を展開した事を初めて知り、淑徳大学に対する理解が更に深められた」(社会福祉学科4年男子)とあり、今後の授業内容への期待感を記述したものも認められた。

3. 淑水記念館の参観

第2回の授業は、学祖の生涯を略年譜で示した「配布資料」に基づくもので、その生涯を概略説明しながら学祖の思想について解説した。この第2回授業の内容を踏まえて、第3回授業では講義室からキャンパスに出て、まず中庭の学祖像と善財童子像を案内する。次に、「淑水記念館」2階に集合して参観に際しての留意点等を説明の後、4階の常設展示（＝長谷川良信の生涯に沿ってその事跡等を紹介したパネル展示）を中心に参観の機会を提供した。履修学生の多くは、淑水記念館の参観は初めてのようで、いずれも熱心で生氣ある態度が印象的であった。参観後の所感では、「今日の見学を通して、長谷川良信先生が少し身近に感じられたと同時に、もっと長谷川良信先生の事を知りたいと思いました」（実践心理学科4年次女子）といった内容が多く見られた。学祖が日常携帯していたと思われる「ノート」や、「パスポート」、「手紙」、「衣服」、「僧衣」についての感想、なかには「数珠」に興味を示した学生の所感もあった。学祖着用の燕尾服の横に立った小太りの私と見比べて「先生には着られそうもない」と笑う学生や、書道の心得があるという学生は展示中の書額を見て、学祖の人柄に思いを馳せる姿も見受けられた。

4. 長谷川良信の感動物語

淑徳大学の学祖、長谷川良信の晩年の俳句に、「吾れ何と寝てもさめても大学か」（『長谷川良信遺滴』271頁）とある。学祖の親友、常光浩然師によれば、「長谷川君は淑徳大学を完成した時、何か友人との会合の席上で彼れは、多年の宿願であった大学設立の目的が達したと言って、自ら涙を流して語った」（常光浩然「大乘に生きた人」『長谷川良信遺滴』315頁）とのことである。実に、淑徳大学開学は、学祖の最晩年に成し遂げられた「宿願」であって、「寝てもさめても」、淑徳大学の開学に向け獅子奮迅の努力をしていたことが知られるかと思う。

私が学祖の「句集」や常光浩然師の随想を始めて眼にしたのは、淑徳大学の教員になったばかりの時分であったが、実に感動したように記憶している。こうした感動的な、心動かされた内容を、担当教員として学生諸君に伝えることができるのではないのか。残念ながら、生前の学祖にお目にかかる機会は得られなかったのであるが、科目担当教員として心新たに、長谷川仏教文化研究所の出版物等を読み漁って、いわば「長谷川良信の感動物語」を中心に据え、現学長による著書『トゥギャザー・ウィズ・ヒム』（新人物往来社）、および『長谷川良信』（大空社）をテキストにして、講義ノートを作成するとともに、外部講師として生前の学祖を知る第1回卒業生のほか、南米浄土宗開教総監で淑徳大学客員教授の佐々木陽明先生をはじめとする大乘淑徳学園関係の先生方を招聘して授業をお願いしてきたのである。

なお、外部講師にお願いした先生方の授業についてはその都度カセットテープに録音させていただいたが、この録音テープは淑水記念館3階の淑徳大学アーカイブズの要請に応じて、CD化したうえで提供し、保管していただくことにしている。

5. 善財童子像

感動した内容に基づき作成したシラバスから、紹介しておきたい授業内容の第一は、「第6講 善財童子像と学祖長谷川良信先生」である。1979年（昭和54）4月、私が淑徳大学の教員になって奇異に思ったことの第一は、今思うに善財童子像であった。耳慣れない名称であったが、それが善財童子であることを知り、密かに調べてみると、なんと『広辞苑』（岩波書店）の項目にもある。それにしても、なぜ善財童子なのか？ しかも、大学のキャンパスに小僧姿は似合わない。せめて、阿修羅像くらいの少年か青年姿が望ましいのではないのか。そうした疑問は、当時の理事長で淑徳短期大学の

学長であった長谷川良昭先生から頂戴した録音テープによって解消したように思う。その録音テープを聴いてみると、善財童子像の設置は学祖自身の希望によるもので、大巖寺幼稚園の園児にも親しまれるように子ども姿がよいと、このような配慮から設置したものであったことが分かる。淑徳大学の善財童子は永遠の子ども像が特色である。子ども像には、めまぐるしい時代の変化に対応できる融通無碍な心をうかがうことができる。しかも、学祖自身も「淑徳七十周年を想う」という文章の結びで「善財童子の如くありたいものである」と書き残している。すなわち、「まことに般若心経の教えるが如く、すべてを大観し広大な視野の下に、日新又日新、行き往いて従容自若無限無窮の向上進歩の道程に立つ永遠の求道者善財童子の如くありたいものである」（『長谷川良信遺滴』177頁）とある。「従容自若」とは、たとえ危急の際にも落ち着いた、ゆとりある様子を意味しているが、いたずらに「旧套を墨守」することなく、日々新たな心で「向上進歩の道程」を睨みながら目前の課題に一つ一つ取り組む善財童子の修行の道程を思い浮べることが許されるであろう（続く）。



善財童子像

『高瀬真卿日記』一（淑徳大学アーカイブズ叢書1）の刊行

明治18年（1885）、わが国で2番目の感化院である東京感化院の創設者として感化教育史にその名が刻まれている高瀬真卿（たかせしんけい）は、政治（戯作）小説・史談の作者、新聞記者・新聞社経営者、自由民権運動の演説家として活躍したほか、刀剣鑑定にもかわり雑誌『刀剣と歴史』を発行するなど、多くの分野に足跡を残しています。

高瀬真卿に関する資料は、平成22年12月に真卿のご子孫から淑徳大学アーカイブズに寄贈されました。その中に真卿の明治15年（1882）から大正13年（1924）の死の直前まで、43年にわたって書き続けられた日記全28冊が含まれており、このたび淑徳大学アーカイブズ叢書として刊行することとなりました（全5冊予定）。これらの日記から、今まで不明な点の多かった高瀬真卿の諸分野での足跡を克明にたどることができます。



『高瀬真卿日記 一』には、日記をつけ始めた明治15年から25年までの日記5冊分を収録しました。この時期は、真卿の生涯においては、小説家から転身し、感化院経営者としてその地位を確立する重要な時期にあたっており、その意味でも重要な記録といえます（『近代日本の感化教育事業のさ

きがけ—高瀬真卿と東京感化院—』の著者長沼友兄氏の解説付)。

発行日 2012年3月20日発行
価 格 本体3,000+消費税
取 扱 株式会社ディーエスサービス
東京都板橋区前野町5-5-2
大乘淑徳学園法人本部ビル内
Tel 03-5392-0081

『淑徳共生苑五周年誌』の刊行

淑徳大学の姉妹施設である社会福祉法人淑徳共生苑は、平成19年(2007)4月1日に開苑し、本年で創立5周年を迎えました。本年6月9日にはその記念式典が挙行されましたが、この式典にあわせて淑徳共生苑では『淑徳共生苑五周年誌』を刊行しました。本書の刊行にあたって当アーカイブズはこれに全面的に協力し、企画・編集段階から関わってきました。

内容は、まず「はじめに」で淑徳共生苑設立の理念や施設の源流について触れ、正式に設立準備会が設立されるまでを振り返っています。次いで第1章「淑徳共生苑の開苑まで」では、平成14年(2002)8月1日の淑徳福祉会設立準備委員会の発足から、平成19年4月1日に淑徳共生苑が開苑するまでの経過を跡付けています。また、第2章「淑徳共生苑五年間の歩み」では、開苑からの5年間を春夏秋冬の季節ごとに詳しく記述し、「統計による淑徳共生苑五年間の歩み」では統計から淑徳共生苑の足跡をたどっています。なお、この章には「共生苑と私」と題して苑の職員の方々の手記がコラム的に合計22本掲載されています。そこでは開苑当初の苦労や施設利用者との交流などが率直に語られており、本書の大きな特徴となっています。その他、「付録」として淑徳共生苑の施設概要や組織図、理事会や評議員会の議題一覧、関係者の名簿、年表などがつけられています。

淑徳共生苑では、今後5年ごとにこのような記念誌を継続的に刊行していく予定で、当アーカイブズもこの計画に協力していくことになります。



「淑徳大学アーカイブズ史料講読会」のご案内

— 参加者を募集しています —

淑徳大学アーカイブズでは、地域との連携を図り、地元の方々との交流を深めるため、「史料講読会」を開催しています。現在は当アーカイブズが所蔵している明治から大正期にかけての高瀬真卿の日記を読み進めています。今後は当アーカイブズが所蔵する史料はもとより、江戸時代から明治・大正・昭和にいたる史料を幅広く読みながら、当時の社会や地域について学んでいこうと思っています。

会は毎月第2・第4金曜日の午前10時から午後3時頃まで、淑水記念館4階会議室で開催しています。どなたでも参加できますし、その日の都合に合わせて途中から参加いただくこともできます。初心者の方も大歓迎ですので、くずし字が読めるようになりたい方や昔のことに興味のある方はぜひ当アーカイブズまでご連絡下さい。皆さんで楽しく史料を読んでいければと思います。

淑徳大学アーカイブズ日誌（2011年11月～2012年6月）

2011年

- 11月8日 東北学院資料室視察。
- 11月9日 東北大学史料館視察。
- 11月10日 全国大学史資料協議会東日本部会第76回研究会参加（於明治大学）。
- 11月11日 第6回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 11月16日 社会福祉法人福田会の高橋佳子氏来室。アーカイブズが預かっている福田会の文書資料確認。
- 11月18日 北海道教育大学の二井仁美氏展示見学。
- 11月19日 地域社会福祉史研究会連絡協議会総会・交流会参加（於淑徳大学千葉キャンパス）。
- 11月25日 第7回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 11月29日 淑徳共生苑5周年誌第4回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 11月30日 『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』第4号刊行。
- 12月2日 2012年3月に閉校となる淑徳幼児教育専門学校の閉校後の業務に関するプロジェクト会議出席（於学園本部）。
- 12月5日 福田会の高橋佳子氏他1名来室。アーカイブズが預かっている福田会の文書資料確認。
- 12月5日 石津邦彦氏来室。吉田久一展の写真撮影。
- 12月6日 淑徳共生苑5周年誌打ち合わせ出席。建物の設計・建設担当者と懇談（於淑徳共生苑）。
- 12月6日 千葉県千葉市の三好一成氏より大学時代に発行した研究会の報告書等寄贈。
- 12月9日 第8回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 12月20日 淑徳共生苑5周年誌第5回編集会議出席（於淑徳共生苑）。

2012年

- 1月6日 福田会の高橋佳子氏他1名来室。アーカイブズが預かっている福田会の文書資料確認。
- 1月10日 淑徳共生苑5周年誌第6回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 1月17日 全国大学史資料協議会東日本部会第78回研究会参加（於獨協大学）。

- 1月23日 株式会社ディーエスサービスと淑徳大学アーカイブズ叢書の委託販売契約について打ち合わせ（於学園本部）。
- 1月23日 平成23年度第2回淑徳大学アーカイブズ運営委員会開催（於学園本部）。
- 1月23日 平成23年度「高瀬真卿関係資料の研究」第3回共同研究会参加（於アットビジネスセンター池袋本館）。
- 1月26日 高瀬真卿の御子孫望月和子氏・丸山順子氏ら4名来室。
- 1月27日 第9回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 1月31日 淑徳共生苑5周年誌第7回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 2月7日 福田会育児院史研究会参加（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 2月8日 北区北都古文書研究会の斎藤博氏・沼崎政夫氏高瀬真卿日記閲覧。
- 2月10日 第10回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 2月17日 国際コミュニケーション学部米村美奈ゼミ展示見学。
- 2月21日 淑徳共生苑5周年誌第8回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 2月24日 第11回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 3月1日 株式会社ディーエスサービスと淑徳大学アーカイブズ叢書に関する「出版書籍管理・販売務委託契約」締結。
- 3月2日 総合福祉学部松田苑子教授よりゼミ関係の資料寄贈。
- 3月6日 淑徳共生苑5周年誌第9回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 3月6日 淑徳大学エクステンションセンターより公開講座関係のポスター類寄贈。
- 3月6日 全国大学史資料協議会東日本部会第79回研究会参加（於武蔵野美術大学新宿サテライトキャンパス）。
- 3月7日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会第265回定例研究会参加（於平和祈念展示資料館）。
- 3月9日 第12回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 3月16日 淑徳共生苑5周年誌第10回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 3月17日 埼玉みずほ台キャンパス職員山本サチ子氏より教職員名簿類寄贈。
- 3月19日 総合福祉学部多々良紀夫教授より研究報告関係資料寄贈。
- 3月20日 淑徳大学アーカイブズ叢書1『高瀬真卿日記 一』刊行。
- 3月23日 第13回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 3月27日 淑徳共生苑5周年誌第11回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 3月30日 福田会育児院史研究会参加（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 4月3日 淑徳大学募金広報室より旧淑徳チェルトナム・カレッジの印鑑類移管。
- 4月6日 淑徳共生苑5周年誌第12回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 4月13日 第14回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 4月19日 淑徳共生苑5周年誌第13回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 4月24日 千葉・関東地域社会福祉史研究会機関紙『千葉・関東地域社会福祉史研究』第36号納品。
- 4月25日 国立公文書館講演会「公文書館の世界―議事録には、苦すぎる心理がたくさんありすぎる―」参加（講師大濱徹也氏、於飯田橋レインボービル）。
- 4月26日 淑徳共生苑5周年誌第14回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 4月27日 第15回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 5月7日 静岡県浜松市の伊藤友治氏より大学時代のレポート類や柔道部関係の資料寄贈。
- 5月7日 淑徳共生苑5周年誌第15回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 5月11日 第16回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 5月11日 淑徳共生苑5周年誌第16回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 5月11日 社会福祉学部金子保教授担当「長谷川良信の思想と生涯」受講学生展示見学。
- 5月12日～13日 社会事業史学会第40回大会参加（於日本女子大学目白キャンパス）。
- 5月15日 淑徳共生苑5周年誌第17回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 5月17日 淑徳共生苑5周年誌第18回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 5月17日 淑徳大学千葉アドミッション・オフィスより大学の行事その他の写真寄贈。

- 5月18日 丸山順子氏宅（神奈川県葉山町）を訪問し、高瀬真卿の胸像や書簡等の資料を受領。
- 5月19日 豊島区・豊島新聞社・マハヤナ学園・長谷川仏教文化研究所共催「池袋物語VI スペシャル マハヤナ学園の創設と活動」参加（於淑徳巣鴨中・高等学校視聴覚室）。
- 5月22日 淑徳幼児教育専門学校の文書等の確認。
- 5月23日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会平成24年度総会及び講演会参加（於戸田市立図書・郷土博物館視聴覚室）。
- 5月24日 淑徳共生苑5周年誌第19回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 5月25日 第17回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 5月30日 淑徳共生苑5周年誌第20回編集会議出席（於淑徳共生苑）。
- 5月31日 全国大学史資料協議会東日本部会2012年度総会参加（於日本女子大学目白キャンパス）。
- 6月1日 総合福祉学部伊藤千尋講師と学生18名展示見学。
- 6月6日 淑徳幼児教育専門学校の文書等の選別作業。
- 6月8日 第18回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 6月9日 『淑徳共生苑五周年誌』刊行。
- 6月14日 今年度の展示準備のため山武市歴史民俗資料館調査。
- 6月16日 平成24年度建学式・教職員特別研修会で大濱徹也氏「私立学校の記録資料管理と保存活用について」講演。
- 6月21日 総合福祉学部金子保特任教授より授業科目「長谷川良信の思想と生涯」の講義テープ寄贈。
- 6月22日 第19回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 6月29日 総合福祉学部米村美奈ゼミ1年生17名展示見学。
- 6月29日 福田会育児院史研究会参加（於東京児童福祉研究所九段研究所）。

資料の寄贈・提供のお願い

淑徳大学アーカイブズでは、大学及び大乘淑徳学園に関係する資料を広く収集しています。

- ①大学及び学園が発行した新聞・雑誌・広報誌・年報・報告書等。
- ②学生時代の写真・講義ノート・教科書・手帳・日記・記念品・記章・各種書類等。
- ③学生時代に使用していたもの。
- ④大学及び学園のサークルや研究会の活動を示すもの。

上記以外の物でも結構ですので、お気づきのものがあればお気軽にご連絡下さい。

また、大学及び学園の各部署や学部学科、機関で保存期間の満了した文書、あるいは廃棄の対象となる文書が発生した場合は、大学アーカイブズまでご一報下さい。



淑徳大学

アーカイブズ・ニュース 第5号

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

発行日 2012年7月30日

編集・発行 淑徳大学アーカイブズ
〒260-8701

千葉県千葉市中央区大巖寺町200

TEL 043-265-7526 (直通)

e-mail archives@soc.shukutoku.ac.jp